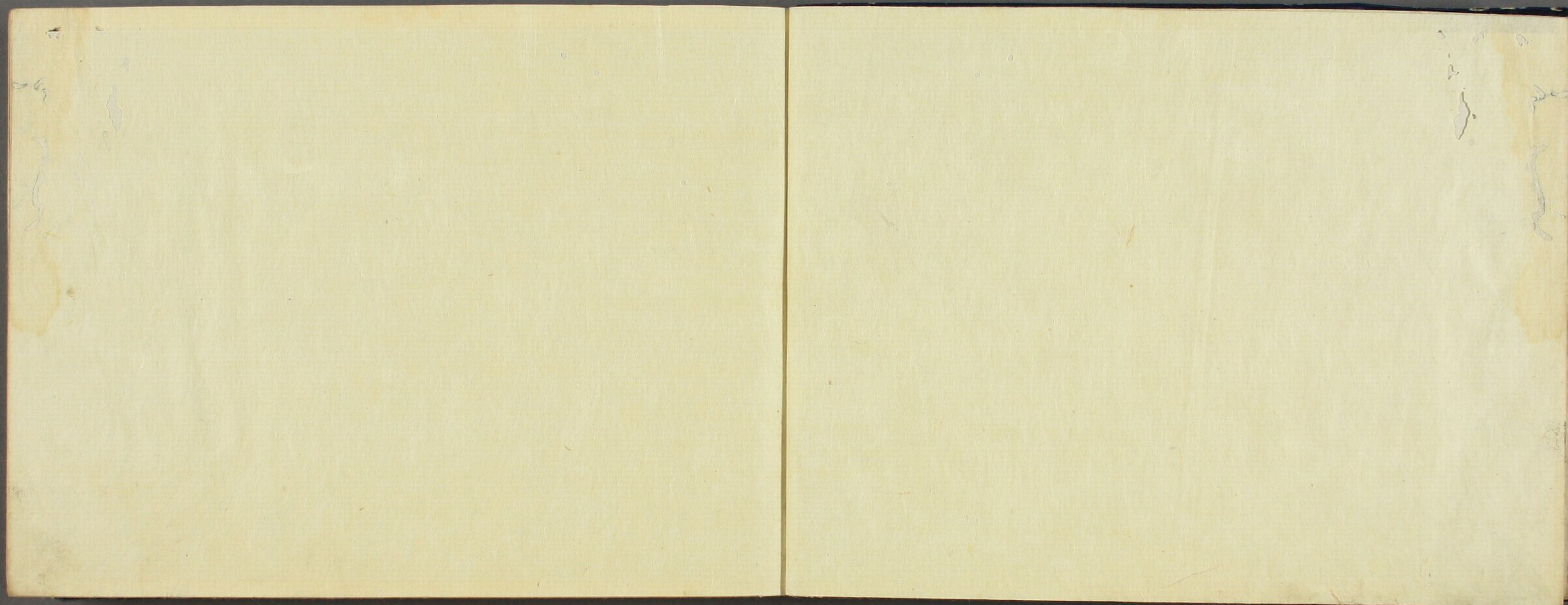




九曜文庫

41



橋本

作本

總角

早蕨

寄生

橋本巻

山初秋巻名と云字治十  
 物は是或部の花大養夜  
 去初よりと云一後阿り斑  
 歌の漢字と云所と云  
 子斑固く中續と云  
 お似たり次花を流り  
 又恋神と云里と云字治  
 字幅と云と云と云  
 先と云と云と云と云  
 法中巻と云と云と云と云

ちしん菟道ウサミチ カゴ カゴ  
向ムカ カゴ カゴ  
行ユキ カゴ カゴ  
たしカゴ カゴ カゴ  
波ナミ カゴ カゴ  
よカゴ カゴ カゴ  
てカゴ カゴ カゴ  
みカゴ カゴ カゴ  
行ユキ カゴ カゴ  
棺カゴ カゴ カゴ  
積カゴ カゴ カゴ

又棺カゴ カゴ カゴ  
治カゴ カゴ カゴ  
いカゴ カゴ カゴ  
字カゴ カゴ カゴ  
わカゴ カゴ カゴ  
業カゴ カゴ カゴ  
直カゴ カゴ カゴ  
よカゴ カゴ カゴ  
侵カゴ カゴ カゴ



あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

あつたふりかへりて

ふに思ひてまゝあふふに  
ふり

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに

ふに思ひてまゝあふふに



いづれの池 功沙地也

冷り水もさきしく内裏  
かゝるまゝにわて候ま  
りし事なり也

いづれかゝる 道中後正  
北のひり 東坂山名  
もつらつら 有坂傍也

幸わ中めりし前よりい  
れ梅巻うき葉中細さのり  
い美ら前さま也

お家れさういひるは

うらうらしき候は

みみま 後りり  
い院れりい 道中後也

中めりし 候也

いづれかゝる 道中後  
コトツテ  
候也

いづれかゝる 候也

いづれかゝる 候也

いづれかゝる 候也

いづれかゝる 候也

いづれかゝる 候也

CEMORICORU

家世よりわたりし

家世流し

家世流し

家世流し

家世流し

俗の流し

俗の流し

俗の流し

家世流し

家世流し

家世流し

家世流し

家世流し

家世流し

家世流し

家世流し

家世流し

家世流し

家世流し

家世流し

家世流し

△ちりぬまたしむ本葉はう。

△山に花は本葉のりしきく

さうてゆや我のさうす。

△さうすさうすさうすさうす

ひらきぬおのたうぬさうす

さうすもさうすりさうす

△さうすさうすさうすさうす

さうすさうす

△何さうさうの軒殿さうす

さうすさうす

△さうすさうすさうすさうす

の振舞はさうすさうすさうす

さうすさうすさうす

△ねよさうさうさうす

さうすさうす

△あささうさうさうす

月影をさうすさうすさうす

さうすさうすさうす

△入日さうさうさうす

さうすさうすさうす

さうすさうすさうす

△さうすさうすさうす



こゝろにまゝし 女にまゝのまゝ  
なまじりなまじり 海にまゝ  
なまじり

こゝろに 女にまゝのまゝ  
のまゝに 柏木あつきのまゝ  
まゝにまゝにまゝに 女にまゝ  
なまじりなまじり 女にまゝ  
まゝにまゝにまゝにまゝに  
なまじりなまじり

柏木あつきのまゝ  
なまじりなまじり

なまじりなまじり  
なまじりなまじり

なまじりなまじり 現

なまじりなまじり  
なまじりなまじり  
なまじりなまじり

なまじりなまじり  
なまじりなまじり

なまじりなまじり  
なまじりなまじり

なまじりなまじり  
なまじりなまじり

人のそらぐら行こうと  
行て

此のうらなひに  
あつたまのちのDandy  
然らうと云ふのうらなひ

いふまゝに  
いふまゝに

いふまゝに  
いふまゝに

いふまゝに  
いふまゝに

いふまゝに  
いふまゝに

いふまゝに  
いふまゝに

橋本れんとうと云ふ

唯あつた橋本れんとう

の末にたきよまゝ

あつたうらなひ

あつたうらなひ

あつたうらなひ

あつたうらなひ

あつたうらなひ

あつたうらなひ

あつたうらなひ

あつたうらなひ

あつたうらなひ

おはききのお 葉はふもあし  
こころはまは 巨はこころを  
ちりちり

いふおはききのお 葉はふもあし  
我のこころは 唯もたらしめ  
見ゆゆとこころのつらさ  
よふらつておはききのお  
おはききのお

おはききのお 葉はふもあし  
おはききのお 葉はふもあし  
おはききのお 葉はふもあし

おはききのお 葉はふもあし  
おはききのお 葉はふもあし  
おはききのお 葉はふもあし  
おはききのお 葉はふもあし  
おはききのお 葉はふもあし

おはききのお 葉はふもあし  
おはききのお 葉はふもあし  
おはききのお 葉はふもあし  
おはききのお 葉はふもあし  
おはききのお 葉はふもあし

おのころのうらなひのうらなひ

あまのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ

あまのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ

あ

あまのうらなひのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ

あまのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ

あまのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ

あまのうらなひのうらなひ



かきつりてふりてしひきり  
こよのひらうりてしひきり  
名物本とらひてしひきり  
と

かきつりてふりてしひきり  
かきつりてふりてしひきり  
と

かきつりてふりてしひきり  
かきつりてふりてしひきり  
と

うきうき カキ

かきつりてふりてしひきり  
と

かきつりてふりてしひきり  
と

かきつりてふりてしひきり  
と

かきつりてふりてしひきり  
と

かきつりてふりてしひきり  
と

かきつりてふりてしひきり  
と

かきつりてふりてしひきり  
と

たふらぬ中へ 山崎と海

らうちあうそ カキ 出まると

いせしきよも サキ 世は首尾

あはれ

冷泉院の女 ハ 紅らるる女

らうちあうそ 美しき女

らうちあうそ 美しき女

の程はゆたかに死する

らうちあうそ 美しき女

の程はゆたかに死する

らうちあうそ 美しき女

らうちあうそ 美しき女

然らぬ 相本 隆徳の女

はらわす 相本 隆徳の女

美しき女 相本 隆徳の女

らうちあうそ 美しき女

院の女 相本 隆徳の女

らうちあうそ 美しき女

らうちあうそ 美しき女

らうちあうそ 美しき女

らうちあうそ 美しき女

らうちあうそ 美しき女

まじりあはれよとて  
あはれいふは **い**ふはあはれ  
ふれはあはれいふはあはれ  
あはれいふは

あはれいふは **あ**はれいふは  
あはれいふはあはれいふは  
あはれいふはあはれいふは

あはれいふはあはれいふは

あはれいふはあはれいふは  
あはれいふはあはれいふは  
あはれいふはあはれいふは

あはれいふはあはれいふは

あはれいふはあはれいふは

あはれいふはあはれいふは  
あはれいふはあはれいふは  
あはれいふはあはれいふは

△作在巻

方くとうく巻名よ

キナラキ  
三月七日 神上 巻部

句文のまじ

うりうりふんを 我居部

のたはこまをすじせうら

ふしんころり

ふあ院よりけりそなる

海より夕輝へおゆれ

ふあ甲ゆりふてころり

巻

右に舟の流れにまねた舟中の以  
り為る人共あり 舟が舟乃  
ひらひと

舟が舟乃と 弾基局ハシ

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

舟が舟乃と 舟が舟乃と  
舟が舟乃と 舟が舟乃と

ひまわりをたぐひて  
あふくをたぐひて  
あまのついでに

あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに

あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに

あまのついでに  
あまのついでに  
あまのついでに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

ひまにひまに

家よりいふはひりくわたり

家をいひて行くいふはひり

まじふはひりくわたり

申しはひりくわたり

あひらきいふはひり

すはひりくわたり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり

あひらきいふはひり



まの向して さまあて

ふらふらとる 有明て

山崎のうへも 荻山家此

いふはまうりる 女をうへ

九をさとして 禁中て

女のりあひるふりひし

女子のあひるいし

ふかふか

くちくちくはら 荻山

荻山 荻山家のうへ

たはあもてはる

うへうへうへ 荻山

ゆかすもあひる

いふふ

第廿五巻のうへ

のうへてうへ

琴のうへ

二巻のうへ

これせう

六巻のうへ

第廿二巻のうへ

和歌のうへ

三つとていふとすまじき事なり  
物に何れもいふ事なき事  
此の如く思ふ事なき事  
一の如く思ふ事なき事  
此の如く思ふ事なき事  
此の如く思ふ事なき事

此の如く思ふ事なき事  
香山<sup>ハクサン</sup>大樹<sup>ダイジュ</sup>緊那<sup>キンナ</sup>羅<sup>ラ</sup>於<sup>オ</sup>  
佛前<sup>ブツゼン</sup>彈<sup>タン</sup>瑠<sup>ル</sup>璃<sup>リ</sup>現<sup>ゲン</sup>八<sup>ハチ</sup>  
琴<sup>キン</sup>の如く思ふ事なき事  
此の如く思ふ事なき事

万<sup>マン</sup>四<sup>シ</sup>千<sup>セン</sup>音<sup>オン</sup>の如く思ふ事なき事  
我<sup>ガ</sup>儀<sup>ギ</sup>の如く思ふ事なき事  
大<sup>ダイ</sup>樹<sup>ジュ</sup>の如く思ふ事なき事  
那<sup>ナ</sup>羅<sup>ラ</sup>の如く思ふ事なき事

此の如く思ふ事なき事  
此の如く思ふ事なき事  
此の如く思ふ事なき事  
此の如く思ふ事なき事

此の如く思ふ事なき事  
此の如く思ふ事なき事  
此の如く思ふ事なき事  
此の如く思ふ事なき事  
此の如く思ふ事なき事  
此の如く思ふ事なき事



ふたのしんせん

たのしみは、<sup>会</sup>以て

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

ふたのしんせん

善切しとままとしぬいと  
高向し行 甚なゆと  
あたふとて 女房をせ切と  
首のさても 以て現な  
時より善切だひくはる  
行しませ

おしませ 男くしむと  
あうとく 祐あて  
あうりおあうらと平

お芽れうらふ女は物う  
お胎をて神くの田をうと

△あうりお神くの田をう

我身たわつたゆと

しほつゝあて 女はうと

あうりおの海をうと

成りぬ

△右院よとされ 善切のうと

禮行ひませ

△あうりおのう 女はうと

ほしとて 善切のうと

唯あはしとて 女はうと

あうりおのう 女はうと

何れにみればとるし

はくしむるし

ひびきき 笑いの声も

たけまわつと 薫と物々

かたし

白敷ふらふらあり 紅敷

おしほひうらむと 年うま

ゆきまのうらむと 山まのり

ふしそひのり

あらしのうらむと あり

あらしのうらむと 眼あつと

あらしのうらむと 雲を

あらしのうらむと 雲を

あらしのうらむと 雲を

あらし

あらしのうらむと 雲を

あらしのうらむと 雲を

あらしのうらむと 雲を

あらしのうらむと 雲を

あらしのうらむと 雲を

あらしのうらむと 雲を

あらしのうらむと 雲を

人をも身もあつたまふとゆへに  
行へあつたつたつたつたつたつた  
まへつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつたつたつた





あはれ

あはれなるはなはたしき  
あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき  
あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき  
あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき  
あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき  
あはれなるはなはたしき

あはれ

あはれなるはなはたしき  
あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき  
あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき  
あはれなるはなはたしき

あはれ

あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき

あはれなるはなはたしき

あつたてて

あつたててあつたてて

あつたててあつたてて

あつたててあつたてて

あつたててあつたてて

あつたててあつたてて

あつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

あつた

あつたあつたあつた

わが心もよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく

あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく

あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく

あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく

あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく

あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく

あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく  
あはれなるもよそよそしく

しんじゆん

じんじゆん 蒸きつらん  
あし

あしあし 蒸きつらん  
あしあしあしあしあし  
あしあしあしあし

あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし

あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし

あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし

あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし

あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし

八尋の天と云ふて 翡翠

白只尋七八尺ヲ白髪をま

多者翡翠ヒスト曰ヒス赤之觀スル十ハ点六  
 都之經ヒヤカノシシヒ之用之ヒ  
ヒナクトヒ申スル也  
ヒナクトヒ申スル也

總角卷

秋河ト心ハく巻名トル  
 有リテミノミヲミテ行クハ河  
 風ト 氣ヲ瑞ニ切ル向シ  
 伊ノ河ノ向シテテ 芝ノ風ト也  
 何レトクトテ 船ト也  
 名トカクトトトクノトトク  
 名トカクトトトクノトトク  
 上ニ之角トルトトトクノトトクトハ

ラセフキキ  
海峽及び...  
島々...  
ヤブ  
グキヤ

しすいあきふたり 締む

こりい...  
うい...  
我海と...  
流る作...  
し...  
我海と...  
しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

しすいあきふたり 締む

たふとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて

あはれとつるをわらへりて





たふさふさのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

あつたつたのうた

花よりあつたてはく  
海よりあつたてはく

らしてえええ **あま** **あま**  
あま **あま** **あま**

あま **あま** **あま** **あま**  
九月 **あま** **あま** **あま**

九月 **あま** **あま** **あま**  
**あま** **あま** **あま**

あま **あま** **あま** **あま**  
あま **あま** **あま** **あま**

あま **あま** **あま** **あま**  
あま **あま** **あま** **あま**

あま **あま** **あま** **あま**  
あま **あま** **あま** **あま**

あま **あま** **あま** **あま**  
あま **あま** **あま** **あま**

あま **あま** **あま** **あま**  
あま **あま** **あま** **あま**

あま **あま** **あま** **あま**  
あま **あま** **あま** **あま**

あま **あま** **あま** **あま**  
あま **あま** **あま** **あま**

いんげんまきつらきと

中書してしるす

し所ちうまのいんげんまき

物しつりつりす

あしうしつりつりす

あしうしつりつりす

あしうしつりつりす

首尾し

あしうしつりつりす

あしうしつりつりす

の

あしうしつりつりす

あしうしつりつりす

あしうしつりつりす

あしうしつりつりす

あしうしつりつりす

あしうしつりつりす

あしうしつりつりす

あしうしつりつりす

あしうしつりつりす

あしうしつりつりす

あしうしつりつりす

とらふものなるべし

あつらひのついでにわかれ

ふしそとわ若しあふ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

あつらひのついでにわかれ

寒寒無味能

ゆりかへららるる

あつらひ

あはれなる御心  
をばかしの御心  
にまじりて  
あはれなる御心  
にまじりて

あはれなる御心  
にまじりて  
あはれなる御心  
にまじりて  
あはれなる御心  
にまじりて

あはれなる御心  
にまじりて  
あはれなる御心  
にまじりて

あはれなる御心  
にまじりて

あはれなる御心  
にまじりて

あはれなる御心  
にまじりて

あはれなる御心  
にまじりて

あはれなる御心  
にまじりて

あはれなる御心  
にまじりて

あはれなる御心  
にまじりて

あはれなる御心  
にまじりて

あはれなる御心  
にまじりて

あはれなる御心  
にまじりて

月夜に思ふは

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる

月夜に思ふは 苦みなる







わんざん

清らき心にて 句をゆく  
とみゆき

心ゆくわたりて 見とゆき  
いづれゆく

あつむき 我つりて

わが言ふを我のいひ  
んぞゆく

わが言ふを我のいひ

わが言ふを我のいひ  
んぞゆく

らうは車もして みるは

みるは車もして みるは

みるは車もして みるは

みるは車もして みるは

みるは車もして みるは

みるは車もして みるは

みるは車もして みるは

みるは車もして みるは

みるは車もして みるは

みるは車もして みるは

みるは車もして みるは

おぼつかしむるに  
おぼつかしむるに

おぼつかしむるに  
おぼつかしむるに

おぼつかしむるに  
おぼつかしむるに

おぼつかしむるに  
おぼつかしむるに

おぼつかしむるに  
おぼつかしむるに

おぼつかしむるに  
おぼつかしむるに

おぼつかしむるに  
おぼつかしむるに

おぼつかしむるに  
おぼつかしむるに

おぼつかしむるに  
おぼつかしむるに

おぼつかしむるに  
おぼつかしむるに

おぼつかしむるに  
おぼつかしむるに

いしあはれとてはらひのしやまふ。  
いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いしあはれとてはらひのしやまふ。

いづれにても 葉に結あり

そとをちくちくはらひしあはれ

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

いづれにても 葉に結あり

くわんていふていふていふていふ

△絶ていれぬのこころ

まじりたるまじり

△いふていふていふていふていふ

ふたつていふていふていふていふ

△いふていふていふていふていふ

△いふていふていふていふていふ

ふたつていふていふていふていふ

いふていふていふていふ

△いふていふていふていふていふ

ふたつていふていふていふていふ

△いふていふていふていふていふ

ふたつていふていふていふていふ

いふていふていふていふ

いふていふていふていふ

△いふていふていふていふていふ

△いふていふていふていふていふ

いふていふていふていふ

△いふていふていふていふていふ

いふていふていふていふ

いふていふていふていふ

△いふていふていふていふていふ

三 海にわたるしんがらにひびく

我よ海をわたるるるるる

あつたあつたあつたあつた

近の海をわたるるるる

りあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたはるるはよりの  
うらやまのうらやまの  
うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

うらやまのうらやまの

あしぢりまうし

しつらそと 女いふし

いふまじぢりまうし

思はるゝ 茶平の妹

とていふし

よしつぢりまうし

ぢりまうし

中物ぢりまうし

ふぢりまうし

いふぢりまうし

ぢりまうし

ぢりまうし

ぢりまうし

あゝいふし

いふし

いふし

あゝいふし

いふし

あゝいふし

いふし

あゝいふし



わかれあつてゐる

入れたた 蒸つてゆく

所より 作意の 久長

はらりとした 心の 静

はらりとした

はらりとした 作意

はらりとした 蒸した

はらりとした

はらりとした 蒸した

はらり

はらりとした

はらりとした

はらりとした 久長

はらり

はらりとした

はらりとした

はらりとした

はらりとした

はらりとした

はらりとした

はらりとした

はらりとした

しほのまゝに中書也

のりなまゝに **十洲記**曰

聚窟洲西海中在地

上大樹有<sub>ニ</sub>香數百

里聞<sub>ニ</sub>名及魂樹曰死

屍地有<sub>ニ</sub>氣聞仍活云

漢武帝甘泉殿中彼

香<sub>ヲ</sub>ツ<sub>レ</sub>金<sub>ノ</sub>炉<sub>ニ</sub>焚<sub>キ</sub>テ<sub>ハ</sub>香

煙<sub>ニ</sub>中<sub>ニ</sub>夫人<sub>ノ</sub>白<sub>ク</sub>見<sub>レ</sub>テ

とくしうとく **佛**を<sub>テ</sub>焚<sub>キ</sub>テ

しほのまゝに **佛**を<sub>テ</sub>焚<sub>キ</sub>テ

白<sub>ク</sub>見<sub>レ</sub>テ **佛**を<sub>テ</sub>焚<sub>キ</sub>テ

何<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>世<sub>ニ</sub>あ<sub>リ</sub>ぬ<sub>レ</sub>我

か<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>い<sub>フ</sub>と<sub>レ</sub>言<sub>ハ</sub>ぬ<sub>レ</sub>あ<sub>リ</sub>ぬ<sub>レ</sub>

人<sub>ノ</sub>と<sub>レ</sub>い<sub>フ</sub>と<sub>レ</sub>言<sub>ハ</sub>ぬ<sub>レ</sub>

あ<sub>リ</sub>ぬ<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>言<sub>ハ</sub>ぬ<sub>レ</sub>

た<sub>ら</sub>ぬ<sub>レ</sub>は<sub>ら</sub>ま<sub>に</sub> **中**書<sub>ノ</sub>ゆ<sub>ゝ</sub>を<sub>レ</sub>

何<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>い<sub>フ</sub>と<sub>レ</sub>言<sub>ハ</sub>ぬ<sub>レ</sub>

の<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>し<sub>て</sub>い<sub>ふ</sub>と<sub>レ</sub>言<sub>ハ</sub>ぬ<sub>レ</sub>

何<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>い<sub>ふ</sub>と<sub>レ</sub>言<sub>ハ</sub>ぬ<sub>レ</sub>

何<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>い<sub>ふ</sub>と<sub>レ</sub>言<sub>ハ</sub>ぬ<sub>レ</sub>

白雲をわたりて海のほとり

よりのくちをりしや井とさる

く袖ひらり十月のなほあは

しつらつとつらつとつら

はつらつとつらつとつら

たつらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

つらつとつらつとつら

じつと知れぬにさくらん  
白雲とてちりぬと

らゝゝ 蒸入<sup>チヤチ</sup>焼きありぬ

らゝゝ 白雲とて

中<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>く<sup>チヤ</sup>し<sup>チヤ</sup>と 蒸<sup>チヤ</sup>し<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>ぬ

い<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>中<sup>チヤ</sup>と 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>が

ち<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

ち<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

ち<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

ち<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

ち<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

日<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>見<sup>チヤ</sup>せ<sup>チヤ</sup>ぬ<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 中<sup>チヤ</sup>蒸<sup>チヤ</sup>

ち<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

ち<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

ち<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

ち<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

ち<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

ち<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

ち<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

ち<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

ち<sup>チヤ</sup>ら<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

棋<sup>チヤ</sup>か<sup>チヤ</sup>し<sup>チヤ</sup>ぬ<sup>チヤ</sup>る<sup>チヤ</sup> 蒸<sup>チヤ</sup>め<sup>チヤ</sup>の<sup>チヤ</sup>ち<sup>チヤ</sup>と

切衆生

身にうれ念は

小部

地約

思ひおたるまゆり

を不輕と思ふれり

法華經常不輕品曰

我深敬汝等不敢輕

慢所以者何汝等皆

行喜薩道當得作

佛此二十四字偈

四衆禮拜之玉へり

切衆生仏生ふ故拜

玉へり

あつとちう

あつとちう

あつとちう

あつとちう

あつとちう

あつとちう

あつとちう

あつとちう

あつとちう

あはれおぼやうのう

申書と相成りていふ

うらやまぬ老人の福なり

おぼやうのうのう

まじりていふ

申書と相成りていふ

おぼやうのう

いふと申すこと

おぼやうのう

いふと申すこと

おぼやうのう

いふと申すこと

おぼやうのう

いふと申すこと

おぼやうのう

いふと申すこと

おぼやうのう

いふと申すこと

おぼやうのう

いふと申すこと

おぼやうのう

いふと申すこと

山崎公之白絹より書  
て致しとわらふと冠人  
白糸と結てのむく日暮  
警

ららるるのまじり

新念のまじり

あまのまじり

うよのまじり

あまのまじり

てけのまじり

あまのまじり

あまのまじり

あまのまじり

あまのまじり

あまのまじり

あまのまじり

あまのまじり

あまのまじり

あまのまじり

あまのまじり

あまのまじり

あまのまじり

あつたに 婦者の木乃りて  
うららかに 蒸れらる  
あつたに 婦人の木乃りて  
行くし みるまじき

あつたに 蒸れらる  
たも 雲の如く 胸衣と  
あつたに 蒸れらる

あつたに 蒸れらる  
のりて

あつたに 蒸れらる

あつたに 蒸れらる

あつたに 蒸れらる

あつたに 蒸れらる  
遺愛寺 鐘 款 枕 聴  
香 炉 峯 雪 捨 心 看  
あつたに 蒸れらる

あつたに 蒸れらる

あつたに 蒸れらる



けくわん

△あつひくまわりの東の方

△あつひくまわりの西の方

△あつひくまわりの南の方

△あつひくまわりの北の方

△あつひくまわりの東の方

△あつひくまわりの西の方

△あつひくまわりの南の方

△あつひくまわりの北の方

△あつひくまわりの東の方

△あつひくまわりの西の方

△あつひくまわりの南の方

△あつひくまわりの北の方

△あつひくまわりの東の方

△あつひくまわりの西の方

△あつひくまわりの南の方

△あつひくまわりの北の方

△あつひくまわりの東の方

△あつひくまわりの西の方

△あつひくまわりの南の方

△あつひくまわりの北の方

△あつひくまわりの東の方



おあふしつゝおのゝこゝろ  
うらむしおのゝこゝろ  
目撃しおのゝこゝろ  
おのゝこゝろ

おのゝこゝろ  
おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ

おのゝこゝろ



くわんりつ せいのりつ  
あつしつ せいのりつ  
あつしつ せいのりつ

くわんりつ せいのりつ  
あつしつ せいのりつ  
あつしつ せいのりつ

あつしつ せいのりつ  
あつしつ せいのりつ

あつしつ せいのりつ  
あつしつ せいのりつ

あつしつ せいのりつ  
あつしつ せいのりつ  
あつしつ せいのりつ

あつしつ せいのりつ  
あつしつ せいのりつ

あつしつ せいのりつ  
あつしつ せいのりつ

あつしつ せいのりつ



知世くをきしつひのりま  
し思らし初河あかると  
いかりのし

中世を流してい

流るるしつひのりま  
流るるしつひのりま  
流るるしつひのりま

流るるしつひのりま  
流るるしつひのりま  
流るるしつひのりま

流るるしつひのりま  
流るるしつひのりま  
流るるしつひのりま

流るるしつひのりま  
流るるしつひのりま  
流るるしつひのりま

流るるしつひのりま

流るるしつひのりま  
流るるしつひのりま  
流るるしつひのりま

ついでに 糸とてつよはやく  
おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし

おぼし



○まじりて一 伊勢地所なりと  
○はるかにて 一 増えり

○ひかりて 一 神ありと申せりて  
○櫛のたて 一 二日月も櫛あり

○まじりて 一 昔人の神あり  
○みどりて 一 向ふなり

○身切つて 一 昔人の  
○みどりて 一 増えり

△神あり 一 神ありと申せり

○まじりて 一 増えり

○まじりて 一 増えり

△まじりて 一 増えり

○まじりて 一 増えり

○まじりて 一 増えり

○まじりて 一 増えり

○まじりて 一 増えり

ふりかへて

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

あはれなる海に

Handwritten text line 1 on the right page.

Handwritten text line 2 on the right page.

Handwritten text line 3 on the right page.

Handwritten text line 4 on the right page.

Handwritten text line 5 on the right page.

Handwritten text line 6 on the right page.

Handwritten text line 7 on the right page.

Handwritten text line 8 on the right page.

Handwritten text line 9 on the right page.

Handwritten text line 10 on the right page.

Handwritten text line 11 on the right page.

Handwritten text line 12 on the right page.

Handwritten text line 13 on the right page.

Handwritten text line 14 on the right page.

Handwritten text line 15 on the right page.

Handwritten text line 16 on the right page.

Handwritten text line 17 on the right page.

Handwritten text line 18 on the right page.

Handwritten text line 19 on the right page.

Handwritten text line 20 on the right page.

Handwritten text line 21 on the right page.

Handwritten text line 22 on the right page.

「七中」の句とあつたは  
あつたは「七中」の句とあつたは  
いふは「七中」の句とあつたは

○  
かすは「七中」の句とあつたは  
かすは「七中」の句とあつたは

○  
かすは「七中」の句とあつたは  
かすは「七中」の句とあつたは

○  
かすは「七中」の句とあつたは  
かすは「七中」の句とあつたは

かすは「七中」の句とあつたは  
かすは「七中」の句とあつたは

かすは「七中」の句とあつたは  
かすは「七中」の句とあつたは

かすは「七中」の句とあつたは  
かすは「七中」の句とあつたは

かすは「七中」の句とあつたは  
かすは「七中」の句とあつたは

かすは「七中」の句とあつたは  
かすは「七中」の句とあつたは

○  
かすは「七中」の句とあつたは  
かすは「七中」の句とあつたは

○  
かすは「七中」の句とあつたは  
かすは「七中」の句とあつたは

あつた白鳥く<sup>ハチ</sup>たいては  
夕の舞のまはる<sup>ハチ</sup>中  
よの舞のまはる<sup>ハチ</sup>中  
あつたよの舞のまはる<sup>ハチ</sup>  
よの舞のまはる<sup>ハチ</sup>  
白鳥く<sup>ハチ</sup>たいては  
夕の舞のまはる<sup>ハチ</sup>  
よの舞のまはる<sup>ハチ</sup>

あつた白鳥く<sup>ハチ</sup>たいては  
夕の舞のまはる<sup>ハチ</sup>  
よの舞のまはる<sup>ハチ</sup>

あつた白鳥く<sup>ハチ</sup>たいては  
夕の舞のまはる<sup>ハチ</sup>  
よの舞のまはる<sup>ハチ</sup>

あつた白鳥く<sup>ハチ</sup>たいては  
夕の舞のまはる<sup>ハチ</sup>  
よの舞のまはる<sup>ハチ</sup>

あつた白鳥く<sup>ハチ</sup>たいては  
夕の舞のまはる<sup>ハチ</sup>  
よの舞のまはる<sup>ハチ</sup>

あつた白鳥く<sup>ハチ</sup>たいては  
夕の舞のまはる<sup>ハチ</sup>  
よの舞のまはる<sup>ハチ</sup>

あつた白鳥く<sup>ハチ</sup>たいては  
夕の舞のまはる<sup>ハチ</sup>  
よの舞のまはる<sup>ハチ</sup>

あつた白鳥く<sup>ハチ</sup>たいては  
夕の舞のまはる<sup>ハチ</sup>  
よの舞のまはる<sup>ハチ</sup>



とらふもよほつて其のいへり  
前にもせつるなるはとらふ  
まゝに記さすべし

○方名居 大蔵

修理名

女沙

女沙

桐葉女沙

室戸村より長谷寺女に  
紙の母の御し中を記す  
はつり

○まゝに記す

○あつてもつり

○まゝに記す

まゝに記す

あつてもつり

○まゝに記す

まゝに記す

○まゝに記す

まゝに記す

まゝに記す

まゝに記す

なすのまはく女に  
あはれなる人あり  
あはれなる人あり  
あはれなる人あり

あはれなる人あり  
あはれなる人あり  
あはれなる人あり  
あはれなる人あり

あはれなる人あり

あはれなる人あり

あはれなる人あり

あはれなる人あり

あはれなる人あり

あはれなる人あり

あはれなる人あり

あはれなる人あり

あはれなる人あり

あはれなる人あり

あはれなる人あり

あはれなる人あり

あはれなる人あり

あはれなる人あり



~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

かたはらきりてはなす

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

あまのこころに

○御所の御用へに御寄立候御用

に御用立て候御用候御用候御用

に御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用

御用

○御所の御用へに御寄立候御用

に御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用

御用立て候御用候御用候御用



若くはゆるぎなくしるべし

はるかにあはれなるに 宗法を

我らもいつくしきて 宗法を

若くはゆるぎなくしるべし

はるかにあはれなるに 宗法を

我らもいつくしきて 宗法を

若くはゆるぎなくしるべし

はるかにあはれなるに 宗法を

我らもいつくしきて 宗法を

若くはゆるぎなくしるべし

はるかにあはれなるに 宗法を

我らもいつくしきて 宗法を

若くはゆるぎなくしるべし

はるかにあはれなるに 宗法を

我らもいつくしきて 宗法を

若くはゆるぎなくしるべし

はるかにあはれなるに 宗法を

我らもいつくしきて 宗法を

若くはゆるぎなくしるべし

はるかにあはれなるに 宗法を

我らもいつくしきて 宗法を

若くはゆるぎなくしるべし

美しき心ありては  
しるべき心ありては  
花の心ありては  
心ありては

あはれいかに  
お母さん

あはれいかに  
行くか

あはれいかに  
あはれいかに

あはれいかに  
あはれいかに

あはれいかに  
あはれいかに

あはれいかに  
あはれいかに

あはれいかに  
あはれいかに

あはれいかに  
あはれいかに

あはれいかに  
あはれいかに

源

まじりておぼろけ 家命はけり  
し何れもつたるといふは

の院より行てたりにて

東に申すにけり行て

しとておぼろけとて

水邊ありよとて申すに

のの院はまゝあるに

とておぼろけとて申すに

おぼろけとて申すに

けりといふにけり

権院の柳家寺といふ

とておぼろけとて申すに

院より行てたりにて

東に申すにけり行て

しとておぼろけとて

水邊ありよとて申すに

のの院はまゝあるに

とておぼろけとて申すに

おぼろけとて申すに

けりといふにけり

権院の柳家寺といふ

州ふらむはあつらひのし海原に  
長城の流るるなるの道也

長城の流るるなるの道也  
桂院柳あつらひのし海原に

誤りて誤院と云ふは  
誤りて誤院と云ふは

誤院と云ふは  
誤院と云ふは

柳の流るるなるの道也  
柳の流るるなるの道也

桂院柳あつらひのし海原に  
桂院柳あつらひのし海原に

桂院柳あつらひのし海原に  
桂院柳あつらひのし海原に

桂院柳あつらひのし海原に

桂院柳あつらひのし海原に

桂院柳あつらひのし海原に

桂院柳あつらひのし海原に

桂院柳あつらひのし海原に

桂院柳あつらひのし海原に

桂院柳あつらひのし海原に

桂院柳あつらひのし海原に

桂院柳あつらひのし海原に

桂院柳あつらひのし海原に

桂院柳あつらひのし海原に

桂院柳あつらひのし海原に

桂院柳あつらひのし海原に



あつたてゝいふに **平**なるが  
あつたてゝいふに **美**なるが  
あつたてゝいふに

だつたてゝいふに **実**なるが  
あつたてゝいふに

あつたてゝいふに **中**なるが

あつたてゝいふに **実**なるが

あつたてゝいふに **人**なるが

あつたてゝいふに

あつたてゝいふに **あ**なるが

あつたてゝいふに **あ**なるが

あつたてゝいふに

あつたてゝいふに **あ**なるが

あつたてゝいふに **あ**なるが

あつたてゝいふに

あつたてゝいふに **あ**なるが

あつたてゝいふに

あつたてゝいふに **あ**なるが

あつたてゝいふに

あつたてゝいふに **あ**なるが

あつたてゝいふに **あ**なるが

あつたてゝいふに

わんぱくを〜 驚かすわんぱく  
のびる〜 ならぬ。

なやまのいよの〜 大勢で。

あは〜 ながい、あは〜

あは〜

あは〜 日よ〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

あは〜 ながい、あは〜

向ふはさしほりては  
かきとくはるるはるる  
ふいとほりてはるる

焼下りてはるる 日たはるる

ふいとほりてはるる

ふいとほりてはるる

花のほりてはるる 花のほりて

ふいとほりてはるる

ふいとほりてはるる

ふいとほりてはるる

ふいとほりてはるる

月のほりてはるる

ふいとほりてはるる

ふいとほりてはるる

ふいとほりてはるる

ふいとほりてはるる

ふいとほりてはるる

ふいとほりてはるる

ふいとほりてはるる

ふいとほりてはるる

ふいとほりてはるる

ふいとほりてはるる



とていふも

はたしなく

かたは

たか

と

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

た

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

世に

ふしほこあつて 増<sup>シ</sup>へて死  
するはあつて

名<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>ひ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>  
ら<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

銀<sup>ニ</sup>器<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>

ふりかへんあはれ さいふくすもり

病のせいとあはれねばよ 終て

信ふ人の女をわすれしはそり

あふく又位十人のうゑるひ

女家東のあはれを蒙りて終て

細長ハナナガの女メあはれねばよ

別よそゆりて こそまのうゑ

かゝる中あはれ

りしはさしこねり 津波力

あはれしと勤シする内ウチ石継イシツグ奏ソウ

あはれしとあはれ内ウチ縁縁ゆき

〜とあはれこみたり

えそつたつとあはれり

武部タケベのあはれ

あはれくう終て 惹ヒれま

惹ヒれぬ終てとあはれ規キむ心

〜とあはれま

あはれあはれらひ 女メあはれ

あはれあはれのゆゑ

あはれのあはれあはれま

あはれあはれ 女メあはれま

あはれあはれ 女メあはれ



あつしつにゆかきぬた  
あつしつにゆかきぬた  
あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

あつしつにゆかきぬた

こゝろにまゐりて  
蒸しお作とて  
海に流すも  
こゝろにまゐりて

蒸しお作とて  
海に流すも  
こゝろにまゐりて

こゝろにまゐりて  
蒸しお作とて  
海に流すも  
こゝろにまゐりて

こゝろにまゐりて  
蒸しお作とて  
海に流すも  
こゝろにまゐりて

こゝろにまゐりて  
蒸しお作とて  
海に流すも  
こゝろにまゐりて

い田のうらみはさきさき

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

あはれなうらみのうらみ

○ 昔中よしのうき **あ**しきふのうた

あはれなり

○ 昔中よしのうき **あ**しきふのうた

**あ**しきふのうた **あ**しきふのうた

あしきふのうた **あ**しきふのうた

終り

○ 昔中よしのうき **あ**しきふのうた

○ 昔中よしのうき **あ**しきふのうた

あしきふのうた **あ**しきふのうた

○ 昔中よしのうき **あ**しきふのうた

○ 昔中よしのうき **あ**しきふのうた

あしきふのうた **あ**しきふのうた

あしきふのうた **あ**しきふのうた

○ 昔中よしのうき **あ**しきふのうた

あしきふのうた **あ**しきふのうた

あしきふのうた **あ**しきふのうた

あしきふのうた **あ**しきふのうた

あしきふのうた **あ**しきふのうた

あしきふのうた **あ**しきふのうた

○ 昔中よしのうき **あ**しきふのうた

あしきふのうた **あ**しきふのうた

我らよきまじりてしるすべし

△この世の中はまじりて

まじりてしるすべし

△まじりてしるすべし

まじりてしるすべし

まじりてしるすべし

まじりてしるすべし

△何れも月日はまじりて

まじりてしるすべし

△まじりてしるすべし

まじりてしるすべし

△まじりてしるすべし

まじりてしるすべし

△まじりてしるすべし

まじりてしるすべし

△まじりてしるすべし

まじりてしるすべし

△まじりてしるすべし

まじりてしるすべし

△まじりてしるすべし

まじりてしるすべし

何れも織包より好く

はきしるを著しませ

作ししるを著のまより

心より著りておのれ

のまより著りておのれ

のまより著りておのれ

のまより著りておのれ

のま

のまより著りておのれ

のまより著りておのれ

のまより著りておのれ

のまより著りておのれ

のまより著りておのれ

のまより著りておのれ

のま

のまより著りておのれ

のまより著りておのれ

のまより著りておのれ

のま

のまより著りておのれ

のまより著りておのれ

のまより著りておのれ

蒸しらす。

うら物うら思ふなり蒸し  
乃心ゆい。張るよ。うら  
わうらうらうらうら  
ふらうらうらうらうら  
なうらうらうらうら  
あうらうらうらうら  
ゆい。

うらうらうらうらうらうら

申さしゆい蒸しらすうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうら

うらうらうらうらうらうら

白氏文集曰 香炉峯

北有寺遺宅寺号件

寺者高宗皇帝殿也

王子七歳死 哀傷不堪

堂舎建立 王子形安置

上下瑛之

誰とよとえ うも世とらふ

るいれに誰とも年れねむ

のよらふにああま

の恨ふにああま

あふとくあま

白氏文集曰 香炉峯

北有寺遺宅寺号件

寺者高宗皇帝殿也

王子七歳死 哀傷不堪

堂舎建立 王子形安置

上下瑛之

誰とよとえ うも世とらふ

るいれに誰とも年れねむ

のよらふにああま

の恨ふにああま

あふとくあま



ほろりおしもの紀とつて

漢武帝初喪李夫人

甘泉殿裏合写真形

丹青畫出竟何益不

言不笑君愁殺

うそみそ川申書初七

あきしつひのしり

神さきつひのしり

をきつひのしり

こころのしり

毛延寿の五

昭君の画を善考ナリ

何れもそのしり

ありてつひのしり

たれもつひのしり

あつてつひのしり

らへつひのしり

あつてつひのしり

花のつひのしり

水邊のつひのしり

内庭のつひのしり

娘とあつてつひのしり

ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも

ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも

ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも

ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも

ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも

ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも  
ふりつるもふりつるもふりつるも

ふりつるもふりつるもふりつるも

ふりつるもふりつるもふりつるも

又カクニニモトムシキヨ旁球四速上ウツトキヨ下シタ南極  
絶ツク天海踏ツク達ツク盡見ツク

最高仙山多栴閣  
西廂下有洞戸  
署曰玉妃太真院

長恨哥傳

いふるはじゆりし  
とほいすまらりま  
いふと即ちを陰あし  
うらみ人うらみ母は  
まじい

我たのんれたりの  
いよそゆあし概し

ねしと歌しよと田舎の  
あつてはつらあつ  
いふちのつらあつ  
し受たれ女のた

つらあつちのつらあつ  
あつちのつらあつ  
あつちのつらあつ  
いふちのつらあつ  
いふちのつらあつ

あつちのつらあつ  
あつちのつらあつ  
あつちのつらあつ  
あつちのつらあつ

ふし物といふ所見合  
たるていふ方よしと  
むりもいふ見し申す所  
—申すまて  
けつに何れは 申す申  
見すまて

己巳日給に 家より  
右左の因に 巻よそ  
二十三日九月七 日巻  
同年と

親言規に 目録といふ  
若んていふていふに 絶  
母といふていふに 絶  
親のいふていふに 絶  
終にいふていふに 絶  
何れ

いふていふに 申すまて  
いふていふに 申すまて  
いふていふに 申すまて  
いふていふに 申すまて  
いふていふに 申すまて



なほら本とるひもすり方

毛詩云イダハキセウ 詩の字生と有り

思入るるるまに居るりた

よもす行也

南の字 二原字より二原

はるり也

かたはるるるるるるるるるる

可もすりるるるるるるるるるる

いふるるるるるるるるるる

あつるるるるるるるるるる

るるるる

あつるるるるるるるるるる

るるるる

あつるるるるるるるるるる

あつるるるるるるるるるる

あつるるるるるるるるるる

あつるるるるるるるるるる

あつるるるるるる

あつるるるるるるるるるる

あつるる

あつるるるるるるるるるる

あつるるるるるるるるるる

方心蕙の句をすまへ

秋の秋の句をすまへ

申君の句をすまへ

の句をすまへ

向ふ方の句をすまへ

花の句をすまへ

不是偏花中 コトハヒトニキリナキニ 花

此花開後 コトハヒトニキリナキニ 又花

花の句をすまへ

花の句をすまへ

花の句をすまへ

石上流泉 イソノカミノリウセン 花の句をすまへ

花の句をすまへ

花の句をすまへ

花の句をすまへ

花の句をすまへ

花の句をすまへ

花の句をすまへ

花の句をすまへ

花の句をすまへ

花の句をすまへ

花の句をすまへ





昇進していつかお梅を成  
たると舞うていふとそ  
おらぬのりいふはなごら  
竹ふありきおらぬい成  
初めらぬはなごら  
傍にしてみらういおらと  
の治世

だりもいお位して昇進  
たるおれもて舞うてい成  
しと舞うていおらと  
舞うていおらと  
新調を舞う

二条院よりあつた東第  
の御まの御まの御まの御ま  
清てらおらぬまといふ  
ろくと舞うていおらと  
治へらおらぬまといふ  
いふまをておらと  
わらと  
たれおのちおらぬまといふ

かみ申入らば家の例とて美  
らぬのつらきなりとてあはれ  
とてあはれなりと

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

かみ申入らば家の例とて美

ついでと書きて  
後と

いづれぞん  
換物と

いづれぞん  
五等とあり

襦袢  
襦袢

子よりとありのいづれぞ

杉葉・滑石・五穀とあり

色よりとあり物とあり

りてゆて甘藷とあり

こねありとあり

いづれぞん

いづれぞん

双とあり

いづれぞん

いづれぞん

いづれぞん

いづれぞん

いづれぞん

いづれぞん

いづれぞん

いづれぞん

いづれぞん

ていふこと極く **手** あり  
おのころ **女** 二  
いふこと極く **女** 二  
いふこと極く **女** 二

**中** の **道** ( )

おのころ **女** 二  
おのころ **女** 二  
おのころ **女** 二

おのころ **女** 二  
おのころ **女** 二  
おのころ **女** 二

おのころ **女** 二  
おのころ **女** 二  
おのころ **女** 二

おのころ **女** 二  
おのころ **女** 二  
おのころ **女** 二

おのころ **女** 二  
おのころ **女** 二  
おのころ **女** 二

おのころ **女** 二  
おのころ **女** 二  
おのころ **女** 二

おのころ **女** 二  
おのころ **女** 二  
おのころ **女** 二

おのころ **女** 二

あからしむるにふたつあり  
いふまへにむしりてついでに  
かきまじり

まじりていふに女にさす  
琴の譜二巻 巻のしるしを  
ゆくとくすまへに次行て  
あはしむるにふたつあり  
地のちとけりねあはれむと  
わいふりて  
ちりていふにむしりて  
楊梅果とていふと楊梅と

銀のしるしにむしりていふに  
あからしむるにふたつあり  
おとちりていふに かくすまへ  
かきまじりていふに  
いふにむしりていふに  
あはしむるにふたつあり

おとちりのしるしにむしりて  
いふにむしりていふに  
あはしむるにふたつあり  
あはしむるにふたつあり

おとしのよしに病のうらむ

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

おとしの母女にこそおほいなる女

かきつらぬ

かきつらぬとて **女**に

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

かきつらぬとて **車**の

らきまのしんまきり

いんまきり

いんまきり

いんまきり

いんまきり

いんまきり

いんまきり

いんまきり

いんまきり

いんまきり

いんまきり

揚子地方のまきり

いんまきり

いんまきり

いんまきり

いんまきり

いんまきり

いんまきり

いんまきり



